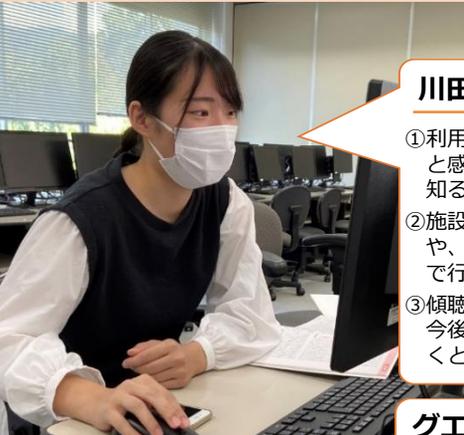


- ①実際に利用者さんと関わってみた感想は？
- ②実習中、嬉しかった出来事は？
- ③実習を終えて「成長した」ところは？また、その成長をどのように活かしますか？



## 学外実習で更に成長した“寄り添う力”



### 川田 朱音さん（徳島県立城ノ内高等学校卒業）

- ①利用者一人ひとり全く違って、関わり方が難しいと感じる方も出会いましたが、いろいろなニーズを知ることができて勉強になりました。
- ②施設職員と家族さんとの関わりを直接見学できたことや、ショートステイの利用者の事前面接にも付き添いで行かせていただき、貴重な体験ができました。
- ③傾聴する姿勢が実習前に比べて良くなったと思います。今後、利用者の事前面接の場面や、家族さんの話を聴くときに活かしていきたいです。



### ヴォントウ アンさん

- ①実際に利用者の方と関わって、いろいろな症状が見られて難しいと感じました。
- ②一緒に外出した時に、景色を見たり話したり、利用者の笑顔を見た時や、帰ってから感謝を受けたりして嬉しかったです。
- ③利用者が自分らしく暮らすことができるよう気持ちに寄り添い、習慣を尊重することが大事と分かりました。今後も積極的にコミュニケーションを取って、気持ちや思いを「傾聴・受容・共感」し、習慣に合わせながら援助したいです。



### グエンティ マイさん

- ①利用者に関わることに心配もありましたが、自然に声を掛けたり、楽しく会話したり、利用者と接する機会が持てて良かったです。
- ②いつも怒られる利用者の入浴介助で、入浴を拒まれましたが、コミュニケーションを図り、最後には利用者から話しかけてもらえました。
- ③職員から「やってみる？」と言ってもらい、自ら声を掛けて入浴介助や排泄介助をさせてもらい、利用者の身体に応じた介助方法を選択して実践できました。この実習で学んだ技術を、介護現場で活かして取り組んでいきたいです。

### 大池 隆さん

- ①その人の生活歴や趣味、今の願いなど、個性を理解した上で、その人のためだけの介護実践を行うことの大切さを感じました。
- ②自分が行った介助に対して、利用者が笑顔を見せてくれた時です。
- ③利用者の立場、他者の立場になって考えることができるようになりました。これからの排泄介助や入浴介助など、利用者の羞恥心を伴う場面で利用者の心情に配慮していきたいです。



### ダンティ ゴック タオさん

- ①実際に利用者に関わり、すごく優しく笑顔で接してもらえて楽しかったです。
- ②食事介助をしながら利用者とお話をするのが楽しかったです。
- ③一人ひとり体力が違うので、利用者の状態や、その日の体調に合わせた声掛けなどの支援をすることを学びました。また、常に利用者の立場に立って考えないといけないことがわかりました。どんな場面でも利用者のADLとQOLを維持するため、自立支援を守っていきたいです。



### ヴェティ ゴック ランさん

- ①いつも利用者が笑顔で接してくれて、「あなたが来てくれて良かった。ありがとう」と言っていただけでした。
- ②利用者と一緒に納涼祭に参加したり、散歩に行ったことです。
- ③生活支援技術を習得することができ、自信を持って利用者と職員と関わることができました。介護の現場で、生活支援技術とコミュニケーション技術を活かして介助していきたいです。



## グエン ニャット ミン フォンさん

- ①施設での実習は想像以上でした！実際に利用者と一緒にみて、いろいろな感情を抱いていることがわかりました。
- ②施設の納涼祭に参加した時や、日々の実習で一緒に歌ったときなど、実習中は嬉しい出来事がたくさんありました。
- ③コミュニケーション能力や生活支援技術が成長したと思います。職員によって介助方法が違い、いろいろな方法があると知りました。これからの授業や就職してからも、生活支援技術やコミュニケーション技術を活かしたいです。

## 山崎 恵介さん (京都府立木津高等学校卒業)

- ①利用者は、日によって出来ることと出来ないことがあるので、介助者はそれらに応じた関わりを意識しなければならぬと感じました。
- ②介助の後や施設内の散歩に行った後、「ありがとう」「楽しかった」と言われたことです。
- ③利用者の観察が徹底できるようになりました。また自分から積極的に利用者に関わることもできるようになりました。今後も利用者と一緒にいていく際に、観察やコミュニケーションを積極的に取ることを徹底していきたいです。

## レ ティ ニュンさん

- ①多くの介護技術や知識を勉強することができました。
- ②利用者と一緒に施設の納涼祭に参加したことや、毎日利用者と話したり散歩に行くことが楽しかったです。
- ③20日間の実習を経て、「移動・移乗・食事・入浴・排泄」などの様々な介助方法を学びました。それらの学んだことを活かして、アルバイトで活用したいです。

## 佐古 空捷さん (奈良県立大和広陵高等学校卒業)

- ①利用者の気持ちの変化がたくさんあり、関わり方が難しかったのですが、だんだんと自分を認知していただき、「この人はこの人」とあるというのが一番感じる事ができました。
- ②自分の声掛けで返事をしていただけたり、笑顔が見られたり、「ありがとう」と言っただけでした。話せなくても表情が明るくなると嬉しかったです。
- ③自己覚知で自分を変えることができスキルの向上に繋がりました！今後も認知症の方との関わりで活かしたいです。

## チャン マン チュオンさん

- ①性格や価値観によって一人ひとり違うので、利用者との関わりも一人ひとり違っておもしろかったです。
- ②排泄介助を行う時、利用者が歌を歌ってくれたことです。
- ③コミュニケーションを取る時、言葉だけではなく、「非言語」と「準言語」を通じて利用者に関わりを深めることができました。これからも、利用者の思いなどを理解して、信頼関係を築いていきたいです。

## ヴ バン タイさん

- ①今回の実習で初めて一人の利用者に対して介護計画を立てて実施しました。このチャンスがあったから積極的に参加することができました。
- ②利用者と一緒に歌ったり、食事介助をしたり、様々な活動をして、楽しかったです。
- ③実習で、知識や技術、コミュニケーションなど、様々なことを知ることができました。そして、報告・連絡・相談がとても大切ということも学びました。これから、アルバイトや仕事だけでなく、自分の周りの高齢者や、自分の家族が認知症になった時、この実習の経験を活かしたいです。

## マーティ タンさん

- ①利用者によって身体状態や生活習慣が違うため、関わり方に難しさを感じていましたが、指導者からのアドバイスを受けることで、利用者との関わりがスムーズになりました。
- ②施設の納涼祭に、利用者も職員も笑顔で参加できて楽しかったです。
- ③最初は利用者が快適な生活を送れるようにケアサービスを提供することが大切だと思っていましたが、20日間の実習で、利用者の気持ちを尊重することも大事だと気づきました。これからは、何か介助する前に利用者の意見を聞き、性格や生活習慣に合わせた介助を行いたいです。

## ホアン ホアイ フォンさん

- ①利用者といろいろな話ができて楽しかったです。それぞれの性格があるので、関わり方も違うことがわかりました。
- ②利用者と一緒にコミュニケーションを取ったり、歌を歌ったりした時や、移乗介助について職員から教えてもらった時が楽しかったです。
- ③熱心な職員から非常に献身的なケアを学びました。利用者の状態はいろいろな時があるので、その人に合わせたケアが大切と知りました。これから利用者と一緒に信頼関係を築き、丁寧なケアを行いたいです。また、利用者の思いや願いなど、心を込めて見つけたいと思います。



ナラサホ  
Instagramはこちら



LINE公式  
アカウント友だち募集中

